

学 校 だ よ り

No. 8 (平成30年9月26日)

東大阪市立 弥刀小学校

校長 木田 千賀子

316名+35名

本校の「全国学力・学習状況調査」の結果等について

本日、「平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（個票）」を6年生児童に渡しました。今年度の弥刀小学校の児童の傾向と本校の取り組みを知っていただくために、全校児童にもお知らせいたします。あくまでも学力の一部に係る調査ですが、児童アンケート結果も含めた全体像をお示しすることで、傾向と課題を知って頂ければと思います。その上で、学校とご家庭がさらに連携を密に取りながら、子どもたちのより一層の健やかな成長を支えていきたいと考えます。

【国語について】

国語A【主として「知識」に関する問題】では、全体的に良い成績を収めることができました。「慣用句の使い方」「敬語の使い方」については、特に正答率が高く、読書タイムや図書室開放等、学校で本を読む機会を確保している成果が表れていると感じます。また、「読むこと」について、目的に応じて必要な情報を読み取る問題も比較的よくできています。ただ、登場人物の心情について情景描写をもとにとらえることについては、苦手という部分も見えてきています。漢字学習については、無記入の回答もあったので、日頃より間違いやすい漢字をしっかりと把握しておくこと、漢字そのものや熟語の意味を意識しながら書くことを心掛けていければと考えます。

国語B【主として「活用」に関する問題】では、少し課題が見える結果となりました。「発言の意図をとらえる」問題においては、大方が理解できているのですが、「役割を考える」問いについては正答率が低くなっています。日頃から話し合い活動は活発に行われているのですが、児童がもっと主体的に、個々の役割を理解しながら進めていく必要を感じます。また、記述式の問題において、無回答率が高く、それに伴って正答率も低くなっています。回答にあたり、いくつかの条件が提示されている際も、一部はクリアできているが、全部はできていないため誤答となるケースが多いです。言語活動において、自らの考えを表現する際、常に根拠や理由となるものは何か明示するよう意識させていくことが大切であると考えます。また、「書く」力を身に付けていきたいと願い、本校ではあらゆる教科や活動の中で「書く」ことを取り入れています。そうした中で、「書く」ことへの抵抗は薄れ、授業の「めあて」や「ふりかえり」を意識しながら「書く」力はついてきていると思います。ただ、段落相互の関係や、文章の構成について正しく理解していくためにも、当たり前のことながら、日頃の「会話」「日記」などで正しい言葉・正しい文章を使っていくようにしていかなければと考えます。

【算数について】

算数A【主として「知識」に関する問題】については、課題ととらえるべき点はいくつかありました。小数の乗法や除法の意味についての理解に課題が感じられ、どのような問題であっても立式できるようにするため、自分で線分図や数直線等をかいたり、図に表して考えたりする力を低学年の時から習慣づけていく必要があると思いました。

算数B【主として「活用」に関する問題】では、昨年度からの学校の取り組みが少しずつではあるが成果をあげてきているのか、伸びてきているのを感じます。条件に合う図形を見つけたり、グラフや表から読み取れる情報をもとに考えたりすることは得意です。ただ、その資料が2つ以上になり、両方から読み取っていく、そしてそれを言語化するという力がまだ不足しています。国語Bと同様に、答える条件がすべてそろわないと誤答となってしまうため、読み取る力をつけるとともに、相手に分かるように伝える力をつけていく必要があります。また、学力に課題のある児童の存在も気になります。少人数指導や放課後学習等でのきめ細やかな指導が引き続き必要であると考えます。質問項目の「算数の勉強は大切だと思いますか」の割合は全国平均よりも高く、「新しい問題を解いてみたい」「生活の中で活用できないか考える」の割合においても同様に高くなっているため、意欲は高いです。今後もさらにきめ細やかな指導を行っていく中で、論理的な思考や、考えを筋道立てて説明する力を身に付けていきたいと考えます。

【理科について】

全体的に、科学的な言葉や概念についての理解が十分ではないように思います。用語について、それぞれ説明できるようにしておく必要があります。

実験は「よくやっている」ので、実験結果をもとに考察し、記述する問題はよくできています。「実験や観察は好き」「理科の授業はおもしろい」という回答は多いのですが、「実験結果からどのようなことが分かったか考える」「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないか振り返る」点に弱さが見られます。それぞれの実験や観察の意味、予想を立てて計画的に実施し、結果をまとめるという流れをきちんと押さえていく必要があると考えます。

【全体を通して（児童質問紙から）】

「自分には良いところがある」は全国平均よりも肯定的な意見が多く、「人の役に立つ人間になりたい」とも考えているので、将来社会を担う人材になっていってくれればと期待できます。新聞もよく読んでいますし、「地域・社会の出来事に関心がある」子どもたちなので、前向きに進んでいく態度をはぐくんでいければと思います。本校の良さでもある地域との連携をしっかりと受け止めていて、地域活動への参加や学習面での関わりも、府や全国平均を上回っています。

「家で宿題をしている」と答えた児童は、「当てはまる」「どちらかといえば」両方合わせると100%になります。平日授業以外に3時間以上学習しているこの割合も高く、「全くしない」という子が0となっています。今後もより子どもたちが主体的に学習を進める中で、自身の課題を受け止めて努力したり、関心のある部分についてさらに学びを進めたところを評価したりする中で、一人ひとりが確実に力をつけていけるよう導いていきたいと思えます。

一方で、「学校のきまりを守っている」「家の人と学校の出来事を話す」という質問については、昨年度行った別の調査と同じく、低い結果となっています。これから大人に近づいていく中で、決まりを守り、規範意識を持つことは重要です。ご家庭は子どもたちの生活基盤でもあります。今一度ご家庭でのお子さまの様子を見つめていただき、お子さまが心身ともに健康に成長していけますよう、見守っていただきますよう、よろしくお願ひします。また、家庭学習につきましては、本年4月に配布しました「弥刀小学校 家庭学習の手引き」をご覧ください、学習へのご家庭の支えや協力をよろしくお願ひします。

学校としても、子どもたちが考え、行動し、仲間と高めあう中で「生きる力」を身に付けていけるよう、組織的に取り組みを進めていきたいと考えています。